

大会宣言

「希望に輝く未来のために、いまともにたたかおう」のスローガンを掲げ、結成してから 30 年。全労連は、様々な逆風や攻撃にも屈することなく「すべての働く者の人間らしい生活の実現」をめざしてたたかい続けてきた。コロナ禍が労働者・国民の“命・暮らし・雇用・営業”を直撃している未曾有の社会状況のもと、全労連の価値と役割があらためて鮮明になっている。

コロナ禍は、「新自由主義」の誤りを浮き彫りにした。利益・効率を最優先に、医療・公務公共サービスを切り捨て、働くルールを破壊し、「民営化」「規制緩和」「自己責任」を推し進めてきた「新自由主義政策」が事態を深刻にしている。コロナによる困難は、とりわけ非正規労働者や女性労働者など弱者に集中し、「貧困と格差」の拡大や脆弱すぎる生活基盤が可視化されるなか、「こんな政治で良いのか」と新しい政治を望む世論が強まっている。その声は、民意無視・国政私物化の安倍政権への怒りの声と合流し、検察庁法改定法案を廃案に追い込むなど、政治を動かし始めている。

コロナ後の社会を「新自由主義」がいつそう闊歩する社会にしてしまうのか、それとも、誰もが人間らしく生活できる、憲法を守り活かす社会に変えるのか、日本の未来が問われる激しいせめぎあいのなかで、全労連第 30 回定期大会（オンライン大会）は開催された。

大会は、第一に、要求を前面に掲げ、日常活動を活性化し、単産と地方が一体に「組織強化拡大 4 か年計画」を引き続き推進し、組織の強化・拡大を勝ち取ることに、第二に、「8 時間働けば人間らしく暮らせる社会をつくる」ために職場の働くルールの強化と法制度の改革を進めることに、第三に、「安倍 9 条改憲阻止、憲法を守りいかそう」の世論と共同を一層発展させ、安倍政権を退陣に追い込み、改憲策動に終止符を打つために、衆議院選挙も見据えて総力をあげてたたかうことを確認した。

大会討論では、コロナ感染の危険にさらされながら最前線で奮闘する医療や福祉、公務公共サービス、教育・流通・小売・交通等、各産業の労働者の切実な要求とたたかいが語られ、感動が広がった。「コロナを口実にした雇用破壊は許さない」と立ち上がったタクシー労働者・ホテル労働者のたたかいは、組合の拡大強化こそ解決の道であることを示し、確信を広げた。豪雨災害や原発事故の被災地の声は「命と暮らしを守ることにこそ、政治の役割があるはずだ」と安倍政治への激しい怒りを訴えた。

さらに、「新 4 か年計画にもとづく組織拡大運動」、「最低生計費試算調査を力に『最賃引上げ』『全国一律最賃制』を求める運動」、「非正規労働者の要求実現と組織化」、「要求にこだわって粘り強くたたかった春闘」、「野党と市民の共同の前進」、「地域に打って出た憲法署名とヒバクシャ署名」、「ハラズメント根絶・ジェンダー平等実現をめざす運動」、「争議解決にむけたとりくみ」、「労働者の SOS に寄り添う労働相談活動」など、地域・職場から豊かなとりくみとたたかう決意が述べられた。コロナ禍の困難のもとでも知恵と工夫を集めて運動が続けられている。「あきらめずに声を上げよう」「声を上げれば変えられる」ことが確信となる討論が展開された。

コロナ禍の今こそ、全労連の出番だ。全労連結成の原点をあらためて確認し、労働者・国民の困難を解決するためにたたかい、切実な要求にもとづく一致点で共同をさらに広げよう。

「新型コロナウイルスを克服し、安倍改憲を止め、憲法が生きる社会を。雇用を守り、8 時間働いて人間らしく暮らせる社会を。すべての労働者を視野に組織と要求を前進させ、未来を切り拓こう」。

この大会スローガンのもと、早期に 150 万全労連を建設し、激しいせめぎ合いに必ず勝利しよう。

以上、宣言する。

2020 年 7 月 30 日

全国労働組合総連合 第 30 回定期大会